

## サギソウ、フウランの抑制栽培

濱 谷 修 一

本年（平成9年）は広島市において全国都市緑化ひろしまフェアが行なわれ、そのうち、11月15日から24日まではランをテーマとした展示が行なわれた。当園も出品協力を行ない、展示スペースの一部に、抑制栽培で開花させたサギソウとフウランを展示した。

### サギソウについて

発芽前の球根を3月始めにベンレートで消毒し、湿ったミズゴケに植え付けた。植え付けてすぐ、植えてある容器ごとポリ袋で密閉し、2℃に設定した冷蔵庫内に貯蔵した。岐阜中山間地農試の住井(1978)のデータによれば、7月1日に冷蔵庫から出して栽培すると11月5日に開花が始まっているので、これを参考にし、11月5～10日頃の開花始めとなるように、7月3日に冷蔵庫から取り出し、冷房温室内(15～25℃)に移した。さらに、7月22日に屋外の風通しの良い半日陰に移し、引続き管理した。

9月15日に一部の株から蕾の発生を確認した。10月15日頃から開花が始まった。10月下旬は最低夜温が5℃程度までさがったため、ビニルハウス内に移したところ、さらに開花が進み、11月上旬に開花のピークを迎えた。

当初の予定と比べて開花が20日以上早まった理由として、参考資料よりも今回の栽培温度の方が高く推移していたことが考えられる。

### フウランについて

当園では、過去に、促成栽培により2月中旬から3月末(前田・青山 1988)、4月末に開花させた例がある。促成栽培では、根の状態によって加温を開始してから生長を開始するまでの期間が異なることや、加温を開始してから開花まで約3ヶ月を要することから、今回目的とする11月中旬に開花させるのは困難であると考えられた。そこで、抑制栽培による開花を試みた。

慣行の栽培方法で管理してきた株のうち、開

花前の花序を持つものを、7月23日に5～10℃に温度を維持している冷蔵庫内(片面が透明ガラスのため、多少光が差し込む)に移した。冷蔵庫中、植え込み材料(ミズゴケ)が十分に乾いた時に、灌水した。冷蔵開始時に開花直前まで大きくなっていた蕾は、冷蔵中に枯死した。一方、かろうじて肉眼で確認できる程度の大きさであった蕾は、枯死しなかった。なお、冷蔵終了までは、蕾はほとんど大きくならなかった。

11月6日に、これらの株を最低13℃の温室に移し、さらに11月10日に最低20℃の温室に移した。開花は11月17日頃から始まり、11月下旬に開花のピークを迎えた。花は、慣行の栽培方法で開花させたものと比べて小さいように感じられた。

今回の結果から、花序が肉眼で確認できるようになってから、速やかに株を5～10℃で冷蔵することにより、フウランの開花を抑制することが可能であることがわかった。開花させる場合には、開花させたい時期の約2～3週間前に冷蔵庫から搬出し、25℃程度の温度で栽培するとよい。

なお、冷蔵に適した花序の発達段階、冷蔵中の光の必要性や、限界貯蔵日数についてはさらに検討が必要である。

### 〈参考文献〉

住井正康.1978.サギソウの開花調節に関する研究.園芸学会東海支部発表要旨(園芸学会昭和53年春季大会発表要旨集:p76).

前田淳一・青山幹男.1988.日本産野生ランの開花調節.広島市植物公園栽培記録第9号(昭和63年):p3-8.